



俳諧袖珍鈔
二

^ 5
1128
2





類題集

秋の部 目錄

來秋 殘暑 冷

身入 稻妻 七夕

星合 銀河 硯洗

盆 墓參 魂祭

二百十日 扇置 角觥

露 霧 暴風

秋風 散柳 木槿

桐一葉 朝白 蘭

秋海棠 女郎花 芭蕉

菽 萩 芒

角觥草 薦 鬼燈

草花 瓢 葱

蕃拵 綿 冬瓜

芋 蟲 蚤

竈馬 蜻蛉 蓑虫

類題集



行秋	橡	紅葉	御過宮	後月	麩	渡鳥	稻刈	栗	雁來紅	砧	十六夜	名月	落水	八朔	鷄
暮秋	橙	木の實	秋の露	名残月	鯽	四十雀	落穂	蕎麥花	芦	藥堀	月	今日月	三日月	夜寒	鴨
秋祭	柿	櫻の實	菊	外市	紅葉狩	鴈	稻雀	初草	蜀黍	芙蓉	駒迎	月見	下弦	秋暮	鹿

冬の部目録

霰酒	蒲團	埋火	火鉢	寒ッ	雪九ヶ	雪	寒菊	枯尾花	大根	復花	散紅葉	夷講	口切	初冰	木枯	小春
乾麩	衾	頭巾	火桶	火燵	氷	雪見	枯野	冬牡丹	枯草	麥蒔	落葉	御命講	神曲王	冬龜	初霜	初時雨
河豚	鉢敲	紙衣	炭	圍爐裏	霰	山眠リ	霜	水仙	枯葱	蕎麥刈	木の葉	冬枯	神旅	炒閑	初雪	時雨

観洗 沢ありしを夏にせりて其は水
より世の塵

盆 夕たやら五燈灯と如くあり
甲戌の縁大はこよりし
とこのまの許より消ぬ
とくはまの縁をまふゆり
てをまると言ふとて

暮茶 夕茶はる枝もまの縁のてをま
魂糸 暮茶はる枝もまの縁のてをま
如茶のよまると

熊坂 田よりや川の流まう
ちの山

なまのりくもは流のてをま
尾まらうまうまう
とてまう

教ありぬまうまの思ひを流糸
出るまう四ふまうまう
二尊 流りぬ二百十日をねまう
なまう天流ちとまう

今よの山枝とわうり
とて

扇置 扇のてをまひまうま
角紙 扇のてをまひまうま
むうまのてをまひまうま
はまうま

猪すのてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま

露 西のてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま

霧 霧のてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま

霧 霧のてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま
まのてをまひまうま

出雲のきくや

あまのほの地

土海地を拂て

あまの日月の

と風をふくむ

まをうて

侍人もわを

女人もまを

まをて

射の乃の侍

侍とよとせ

せんり

重雲の

まの

ふ

秋風

侍

侍

あまのほの地

土海地を拂て

あまの日月の

と風をふくむ

まをうて

侍人もわを

女人もまを

まをて

射の乃の侍

侍とよとせ

せんり

重雲の

まの

ふ

秋風

侍

侍

あまのほの地

土海地を拂て

あまの日月の

と風をふくむ

まをうて

侍人もわを

女人もまを

まをて

射の乃の侍

侍とよとせ

せんり

重雲の

まの

ふ

秋風

侍

侍

あまのほの地

土海地を拂て

あまの日月の

と風をふくむ

まをうて

侍人もわを

女人もまを

伊勢江釣の歌

るひうあぢねをけり秋のそ

情ね念ふ風草

秋香ふとんとれく秋葉の秋

舟水う旅船を送る

つえ送りけりうささけ秋の風

柳法朝こそ

散柳

さかむらさきあはれ秋の風

全留ちかき

木槿

馬上吟

ささきの木槿はるもあはれ

桐葉

出雲守よめ

ささきの桐葉はるもあはれ

出雲守よめ

朝良

朝良 傍柳あはれ死入るはるも

秋香の花ふゆり秋のそ

秋其南草草草

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

あはれ秋のそ

新の法

米のあつては新の法

五七

昔 新の法

新の法

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

萩

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

はるかに

葱

清廟奉饗嘉穀以爲百

本朝源の田舎ふりて

菘のふりて

菘

菘のふりて

かゝるふりて

大のふりて

まのふりて

ふりて

綿

わらわら

ねん

冬瓜

冬瓜

性

芋

芋

西

虫

虫

蚕

蚕

ねん

白髪ぬくすらの下まきり
 こいこや けいこまきりす
 かぢえのふねとりのふね田の
 神社のふねとりのふね
 うまかゝるふね田の
 神のふねとりのふね
 ねんまのふねとりのふね
 おぢい
 むんまのふねとりのふね
 秋のふねとりのふね
 宝馬 けいこまきりす
 蜻蛉 けいこまきりす
 養蚕 みのふねとりのふね
 田舎酒家
 鶉 ねんまのふねとりのふね
 ねんまのふねとりのふね
 田中のふねとりのふね

鳴 刈あやの福のくの時
鹿 心ばのや一寸かあふのさ
いさふて牡鹿もよや牡鹿
きく

いいと鳴く在りて出るとは麻
名八神のちり

八朔 八朔や天のちりまたちの
曲家まきや秋のちり

夜寒 乳物のかとたまるよとむか
六脚まき兼の二人よとと
度と訪はておとあを

きく

秋暮 いくみ里のつかりひやれのれ
言の旅をわらては夜し秋のちり
思ふ来するふ果運かや秋のちり
あはれまき田かひはぬかのわらひを

本因まき
死もは旅麻の呆よあはれの言
涼川の庵

椋郎の尻のちり秋のちり

かき枝のちりまきうら林のちり
重竹自由屋

ころむけ秋のちり
祈思

けろやひ人あしあきさのちり
あまのちりあまのちり中一板
竹木物屋やま交配も落木

三月 三日月や秋のちり月ひん
三日月やとちりひんあまのちり
大層松成能境よりあまのちり
あまのちりあまのちり三月月

嵐茶社七日あまのちり
又やとちり七月あまのちり三月月
二十日あまのちりあまのちり三月月

下弦 二十日あまのちりあまのちり三月月
あまのちりあまのちり三月月
あまのちりあまのちり三月月

あまのちりあまのちり三月月
あまのちりあまのちり三月月
あまのちりあまのちり三月月

あまのちりあまのちり三月月
あまのちりあまのちり三月月
あまのちりあまのちり三月月

とんしりり

各月 名月のちや五十一と宗

まじと名月の夜や名白山
教かえ夜伯

名月や山よりより定かた
名月やふらふらと名月

名歌

夏うけて名月のますこころ

名月や湖水より七小町

名月や山遠かみせのま

名月や鶴雁たれを千原

名月や山と平架の教也

名月や我家ありと名月切

名月や山と名月

名月や山と名月

名月や山と名月

名月や山と名月

名月や山と名月

兼載かたのひ

名月の人おとるい梅せん

名歌神寺

今月 三井ものいよるかたの月

名月や山と名月

名月や山と名月

名月や山と名月

名歌神寺

名月や山と名月

田名歌

名月や山と名月

名歌神寺

名歌神寺

名歌神寺

名月や山と名月

名月や山と名月

名歌神寺

名月や山と名月

月入遊めり歌を

月入遊めり歌を

十夜

Sun's Sparrow's Song

十夜

十夜

十夜

十夜

十夜

十夜

十夜

十夜

十夜

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

河の尾

月とてついでに月とて

極山

我仲の海とてのち月とて

之孫二年つづきの後

月とてついでに月とて

訪遊り上人の古例と

き

月清く遊りのおとる砂の上

後

月とて雨ふ角かたなり

仲秋の夜露かたなり

ぬあつきの相ついでに

ほつ後のまついでに

ふのちのあついでに

とてついでに月とて

後とてついでに月とて

と

月とて清くあついでに

斜山嶺

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

後とてついでに月とて

月とてついでに月とて

并申外 申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

秋霜の音 申の音

申の音

菊の音 申の音

海の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音

申の音

申の音 申の音

申の音

申の音 申の音

申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音

申の音 申の音

申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

申の音 申の音

母兼八條の中宮御成婚

辛酉年二月

母兼御成婚の御成婚の御成婚

九月九日乙未二月一日

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

母兼御成婚の御成婚の御成婚

母兼御成婚

幻夜弄うと夢中を来

の二人たり

柿 菊霜と柿とくもきとあつた

あつ柿や一はつらん様いつく

菅田燕歌う体さう

根文と根とのみのをち柿とん

片舟をさるさう

行秋 里あつ柿の木のよめあつた

り柿やあつ柿とくもきとあつた

拾のふらふらとやちんちんを

り柿の根ののりやまきとん

甲の柿やあつ柿とくもきとあつた

暮秋 柿の木のよめあつた

懐老杜

秋雑 几帳と根とくもきとあつた

えはつ柿とくもきとあつた

るのりやあつ柿とくもきとあつた

活あつ柿の木のよめあつた

活川のよめあつた

秋十とせりてはつた

海傍柿花

この木のよめあつた

田々

あつ柿とくもきとあつた

曲別

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あつ柿とくもきとあつた

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

冬之部

小春 月の淡ふとるふも月れ月

人の許へ初をりて

初霜 ともたれ初のはなはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

後人と初なるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

時雨 ともたれ初のはなはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

あはれなるはなはな

多きもの縁にまゝのまゝ
相葉のぬき 赤結のまじり
くねりあつてくさきまゝ
きしほとす

は海ふも種すてんあま〜れ
葉枯れもあつてくさきまゝ
きしほとす 舟り帆つあふあつきた
船のあつてくさきまゝ 牛屋うれ
一尾指りあつてくさきまゝ 富士の雪
も徳を井岩非外り
あま〜れ

作りあつてくさきまゝ
四里のなま〜

あつてくさきまゝ 林のまじり
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

あま〜れ 舟りあつてくさきまゝ
あま〜れ

初霜

初霜 初〜もや〜もた〜る〜縁の縁
あま〜れ

あま〜れ

半あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

初雪 とも雪や春を告げしうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

初氷 芹葉をまき神の田井のうら

冬兼 あつていふりうら

あつていふりうら

贈酒堂

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

あつていふりうら

神の 國ののりつらつ神の御座り

若月のいづれにや

神の旅 都のく神の御座りの目教る

夷講 といひはる御座りまふ御座り

ふつまの御座りありまふ御座り

御講 若御座りまふ御座り

清ら

山命講や神の御座り酒井

冬枯 くのりや御座りまふ御座り

ふつまの御座り

月の辰と御座り

お旅の御座り

散葉 若御座りまふ御座り

あつまの御座り

くや御座りまふ御座り

白竹付の御座り

くまの御座り

ふつまの御座り

りまの御座り

落葉 百年の御座り

まふの御座り

まふの御座り

入津の御座り

水戸の御座り

おまの御座り

御座り

りまの御座り

おまの御座り

とまの御座り

おまの御座り

おまの御座り

おまの御座り

おまの御座り

おまの御座り

復花 くのりや御座り

おまの御座り

来時 若御座り

蒼空 くのりや御座り

清ら

大根 三十里尾張大根の漬り酢
菊の葉大根の外さふかり

漬り

口よくさふりうり古大根

大根引とつとせ

鞠と重ふ小嶋と重や大根引

生座ふ縁結して重根

と解く時日大夫ふ漬物也

りのふ大根とれとあふか

葉の後座とあふ

桔草 花葉とれとあふとあふは種

舞田こく

桔葱 志のふふふと解りふとあふれ

三枝と解り海川のふふ

唐ふ漬りふふふふふ

おきりあふりふふと向

桔花 どのふふふとあふは桔草

葉名古とあふり

冬特 ふふふふふふふふのふふ

舞田林人うきま表の
周とあふりふふ

水仙 水仙や白き葉ふのふふ

三のふふふふふふのふ

二人ふふふのふふふ

寒菊 その白ひ極ふり白ひ水仙花

字をきくや粉縁のかる田の端

枯野 さらりく我とほふふ桔草

霜 縁ふふふとあふりふふか

ふふふのふふふふふふ

あふりふふふふふふのふ

あふりくとあふりふふ

ふふふふふふふふ

舞田とあふりふふ

かりとあふりふふ

ふふふふふふふふ

舞田とあふりふふ

ふふふふふふふふ

こせられて老の後の志の
里まじればとありて
津波のあつた月
老のの海よるてあると
あつたあつたつてありて

あつた

よつたのよつたの曲や志の志の

湖の水

はる三上宮にわさるるの物

大宮や海のものつては志の志

りけつていづれと志の志の

小舟の舟

よつたよつたよつたよつた

よつたよつたよつたよつた

木枕のありて城やよつたよつた

竹の渡

たつたよつたよつたよつた

雪の雪の雪の雪の雪の雪

雪目

雪の雪の雪の雪の雪の雪

吉平のよつたよつたよつた
曲で頼人のあつた

山職

二人のよつたよつたよつた
よつたよつたよつたよつた

よつたよつたよつたよつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

雪丸

雪丸のよつたよつたよつた

氷

氷のよつたよつたよつた

氷のよつたよつたよつた

あまのつね

よこしやちやちや水うきは所

止は終り朝す由のふとら

止らぬ集の敷かた

一ふしこちのあまのこわつら

瓶とわさの吹の響えり

いこちけりりあつらんあわれ

不山のいふたりあつらんあ

自是自解

いふしなまやあれの捨る

猪市のももを人けり

あまのこちあつらんあ

と申入

あつらんあ

狂言のいふ夜三弦のあま

再世集の巻

つらねやあまのいふ方物

いふあまのいふあつらんあ

雑水のあまのいふあつらんあ

地下のあまのいふ

嚴

寒

ねをたつたては秋あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

水あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

あつらんあ

火燧

圍敷

火鉢

火桶

炭

炭

炭

炭

炭

白きやうの浦へぬるものごと
浦へぬるものごと

少年ととりあへん小対

埋火 埋火ときりやのまのまき

曲の縁故

埋火や埋火のまのまき

自他への後

頭巾 折るやうな頭巾のまき

海川へ入る中

米袋ふきの袋あかりの中

及びあかりの袋あかり

紙衣 かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

車の中あかりの袋

蒲團 かくるものあかりの袋あかり

よき袋

合衣 たのむとく袋あかりの袋あかり

よき袋あかりの袋あかり

鉢敲 かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

霞酒 かくるものあかりの袋あかり

乾鞋 かくるものあかりの袋あかり

汗服 かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

生漕用 生あかりの袋あかり

尾張のあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

鴨 かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

千鳥 かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

かくるものあかりの袋あかり

甲斐の國をゆくは

杜を渡るは

たひらきしるは

社園の幸と

ふらふらと

き

あつちのうら

鷹

師走 月白く

十二月廿二日

法師のうら

五百年の

何のしるは

うらうら

うらうら

月たの

あつちの

定の

あつちの

寒

よー

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

棋掃

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

昨冬の東江流の山中
 川あり父母の山をりせ
 ことと暮るるむうもあけ
 ちみよのこまきありて
 古れや鴈の依みは年のかれ
 監人よ遠くおひる年のかる
 捨のまらうひあまことのかま
 分別のこまきまらう年のかる

長瀬

行年 ゆく年やゆり祝の山ねりり
 りと年やまらうるは梅の花

大年の夜は五人あひて

冬雑

梅千ふらふさあさあさあさ
 ぶらして水あかりやあさあさ
 而月一まらうあんなあさ
 さ一物あまのあまあまあま
 わらあかりあさあさあさ
 大色度えを園に在士さ
 名ごまらうあまあまあま
 まごえんととまらうあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

あまあまあまあまあま

月たのLanghamのQuam

歌をた置

は雅のむく梅の木のあり

瓶の酒のあつあつ

のいふの酒のあつあつ

布衣のあつあつ

のりや草の中の日とた

鼓のあつあつ

海はあつあつあつあつあつあつ

張るあつあつ

世はあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

類

夕のあつあつあつあつあつあつあつ

は良言書

さああああああああああああ

石山秋月

はああああああああああああ

あつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

中田落石

あつあつあつあつあつあつあつ

三井 煥清

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

類題蕉翁發白集卷二平

